

## 年間指導計画と実践で活用できる事例 [小学校第1学年] 目次

4	小学校第1学年 年間指導計画（1学期）	102
小学校第1学年 実践で活用できる事例		
	「いくつといくつ」（算数）5月	106
	「こえのゆうびん屋さん」（国語）6月	108
	「1年生の学校生活について保護者に理解してもらいましょう」 （保護者との連携・理解啓発）4月	110
	「入学当初の1年生の学校生活への適応状況を把握して、 幼稚園・保育園・こども園の指導内容・方法の改善に活かしましょう」 （保育士・教員、小学校教員の連携・交流）4月	112
	「生活や学習の様子を理解しましょう」 （保育士・教員、小学校教員の連携・交流）5月頃	114
	「幼児と児童の交流活動の当該学年担任で打合せ会を行い、 交流活動の改善・充実に活かしましょう」 （保育士・教員、小学校教員の連携・交流）7月	115
	「入学へ向けて幼稚園・保育園・こども園から 小学校への指導の接続を図りましょう」 （保育士・教員、小学校教員の連携・交流）2月	117
	「子どもたちの様子を理解しましょう」 （保育士・教員、小学校教員の連携・交流）3月上旬頃	119
5	小学校入門期の最初の二週間の指導計画例	120



# 4 小学校第1学年 年間指導計画 (1学期)

## 小学校年間指導計画 4・5月

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

		内 容	
台東区の幼児教育がめざす子供の姿	生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身の回りの行動の整理整頓や</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活のリズムがわかり、登校時刻を守る</li> <li>・健康管理・病気の予防等に関心をもち必要なことは自分で行う</li> <li>・手洗い・うがいをすすんで行う</li> <li>・自分の体調の変化に気付き、周りの大人に伝える</li> <li>・体操服への着替えの仕方がわかり、自分で行う</li> <li>・正しい姿勢で立つ・すわる</li> </ul> <p>☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物をしない</li> <li>・物の始末の仕方がわかり、自分でやろうとする</li> <li>・清掃の仕方がわかり、積極的に取り組む</li> <li>・学習の準備・片付けをする</li> </ul> <p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の流れがわかり、時間を守って行動する</li> <li>・交通規則、通学路を覚え、安全な登下校をする</li> <li>・災害や不審者進入時の避難の仕方を知り、安全に行動する</li> </ul>
	人のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい友達や先生に親しみをもち、楽しく学校生活を送る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活には約束やルールがあることがわかり、守ろうとする</li> <li>・公共物を大切にしようとする</li> </ul> <p>☆規範意識の芽生えの育成②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国籍、文化の違う人や身近な人との関わりの中で自己主張したり人の立場を理解したりして行動する</li> <li>・相手の気持ちを考えながら、話したり聞いたりして、自分の感情をコントロールしようとする</li> <li>・相手のよさに気付き、お互いに認め合う</li> <li>・生活や遊びのマナーを知る</li> </ul> <p>☆ここぞし教育③</p>
つながりの柱	学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶ楽しさを知り学ぶことへの自信をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験したことなどについて相手に分かるように話す</li> <li>・自分の体験したことを話し聞いてもらううれしさを感じる</li> <li>・はっきりした声で話す(声の大きさ)</li> <li>・自分の知識や体験と結び付けて、話を聞く</li> <li>・学習の準備・片付けをする</li> <li>・鉛筆を正しく持つ</li> <li>・文字を丁寧に書く</li> <li>・正しい姿勢で立つ・すわる</li> </ul> <p>☆生活習慣・学習習慣の共通化・段階化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔な身支度・手洗いをし、マナーを守って食事をする</li> <li>・配膳の方法を覚え、友達と楽しく食べる</li> <li>・給食は給食室で調理師さんが作っていることを知り、感謝の気持ちをもつ</li> <li>・食品の名前や特徴を知り、食べ物への関心を高める</li> </ul> <p>☆食育①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな表情で楽しく歌ったり踊ったり、リズムを感じ取ったりして全身で音楽を表現する</li> <li>・友達と声を合わせて歌う楽しさを味わう</li> </ul> <p>図画工作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思い付いたもの好きなものを絵に描く楽しさを味わう</li> <li>・材料を基にして造形活動を楽しむ</li> <li>・思いや想像を広げ体全体の感覚や技能を働かせて絵や立体に表したいものを作る</li> <li>・作品や友達の取組を見ることに関心をもちその楽しさを味わう</li> </ul> <p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな動きを経験し体を動かす楽しさを味わう</li> <li>・誰とでも仲よくし、安全に留意して意欲的に運動をする</li> <li>・基本の運動及びゲームの簡単なまなまりを理解し楽しむ</li> <li>・校庭・体育館・屋上などでできる遊びを知る</li> <li>・固定道具の安全な使い方を知る</li> </ul> <p>☆体力の向上④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への誇りや愛着をもつ</li> <li>☆地域財産等の活用</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なことや落さないようにしながら、興味をもって聞く</li> <li>・書かれている場面の様子などに気付きながら読む</li> <li>・経験したことや想像したことなどについて文や文章を書く</li> <li>・楽しんで読書しようとする</li> </ul> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びや観察を通じて季節ごとの特徴に気付く</li> <li>・植物の栽培や小動物や昆虫等の飼育を通して生長の変化の様子や生命の不思議さ、美しさ、面白さ等に気付く</li> <li>・身の回りの自然や環境を活かした遊びを通していろいろな法則や自然事象の特徴に気付く</li> </ul> <p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の流れていく様子や、集合や個数の多さを比較する。</li> <li>・10までの数について、正しく数えることができ、数字を読んだり書いたりできる</li> <li>・10までの数の合成・分解ができる。</li> </ul> <p>算数 →P.106</p>

連携のねらい	
園児	・小学生に親しみあこがれの気持ちをもつ
小学生	・年少者にやさしく接し、思いやりの気持ちをもつ ・自己有用感をもつ
保育士・教員、小学校の教員	・4月の1年生の実態を共通理解し、指導に活かす ・互いの教育について理解を深める

**幼児と児童の交流例**

- ・園児の運動会参観・参加

**保育士・教員と小学校の教員の連携・交流例**

- ・授業参観と情報交換会(4月) →◆P.112
- ・「連携の日」 →P.97

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)①「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」③「下町台東の美しいづくり」(平成19年度) ③「ここぞし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編3～17ページ 365ページ

→P. 〇〇 は、関連する事例が掲載してあるページを示す

◆は、平成23年1月発行「ちいさな芽」を参照

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)  
 1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画的・柔軟性のある環境・援助

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

指導・環境(配慮事項)	段差を乗り越えるための具体的な取組(例)
<p>①段・生活習慣や行動の仕方については、就学前の経験を踏まえ、段階的に指導する</p> <p>②段・整理整頓など身の回りのことを自分でする必要性を感じさせ、保護者の協力を得ながら、身に付けていく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全な避難の方法、約束や交通規則については、就学前の経験に積み重ね、確実に身に付ける</li> <li>清掃や係活動は徐々に始め、子供たちが自分でできた満足感を味わえるようにする</li> <li>食器の扱い方などに注意して、配膳・片付けの流れを知らせる</li> <li>自分でできるようになった喜びを味わうことで自分のことを最後まできちんと行うことの大切さを伝える</li> </ul> <p>・多くの人にあいさつ・返事などをする事で気持ちよさを味わえるようにし、あいさつや返事が習慣化するようにする</p> <p>・困ったことがあったときは自分の言葉で相手に分かるように言葉で説明させる</p> <p>・個人名を呼んで認める、一人一人の思いを受け止める等配慮し教師との信頼関係を築く</p> <p>③段・友達の名前を覚えたり、かかわりを楽しんだりできるような活動を取り入れ、新しい友達との関係を築く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活にかかわりのある人たちのことを知り、どのように接したらよいかを考えさせる</li> </ul> <p>・各個人が学級の一人として認められているか(存在感)、自己を発揮できているかなど、友達関係に留意する</p> <p>・就学前の経験や実態に配慮し興味・関心をもって意欲的に学べるよう、子供たちの気付きや思いを受け止めながら柔軟な指導を行う</p> <p>④段・入学当初は、授業時間を柔軟に区切る、座っての活動と体を動かして行う活動のバランスを考えるなど時間配分や指導内容を配慮する</p> <p>・ユニバーサルデザインを意識し、指導方法や環境設定を工夫する</p> <p>⑤段・実態に応じ、分かりやすい言葉による指示や視覚的表示の活用、集中しやすい教室環境づくりをする</p> <p>⑥段・話の聞き方については「ぐー・ぺた・ぴん」等姿勢の合言葉を活用し繰り返し意識させていく</p> <p>⑦段・短時間の読み聞かせ、お話を通して、1対多数という形式の指導に慣れさせる。</p> <p>・全体にした指示が個人に通っているか、確認をしながら学習を進める</p> <p>⑧段・簡単な課題を通して、一斉指導を通した学習課題への取組の経験を積み重ねる</p>	<p>・時計を使って「長い針が〇になったら」という指示の出し方をする</p> <p>・生活時間や学習時間を弾力的に運用する。水飲みやトイレの時間も意図的に設定する</p> <p>・決められた場所に決められた物をきちんと置くように習慣付ける。提出物用のかごや箱、コーナーなどを作る。持ち帰る物と学校に置いておく物をはっきりと分ける。机の引き出しやロッカーの入れ方を決め、点検し指導する機会を設ける</p> <p>・一日の活動の順序を掲示し、見直しをもって行動できるようにする。</p> <p>・引き出しの入れ方、トイレの使い方など、絵表示を使って説明し、子供自身が繰り返し確認できるよう、分かりやすい場所に掲示しておく</p> <p>・教室に通学区域の地図を掲示する。安全な登下校については保護者と連携し、繰り返し指導をする</p> <p>・清掃・係活動は、理解しやすいよう掲示を活用したり、モデルとして在校生が取り組む様子を見せることから始めたり、少しずつ仕事内容を増やすなど子供の実態に応じて行う</p> <p>・安心感や親しみの気持ちをもてるように、教師や在校生から積極的にあいさつをしていく 歌「あいさつのうた」</p> <p>・自分の考えたことを全体に聞こえる声で話すように指導する</p> <p>・友達とのかかわりを深めるため、互いに自己紹介する活動や学校探検(生活科)仲間作り(算数)学級全体でのゲーム、朝のスピーチや帰りの会の振り返り等を活用する</p> <p>・子供たちが安心感をもち、友達と一体感をもてるように慣れ親しんだ歌、手遊びを取り入れる      歌「みんなともだち」「さんぽ」「世界中の子供たちが」「ゆうき100パーセント」</p> <p>・集中して学習に取り組めるように子供の実態に応じ、授業時間を15分を1コマとするなど、弾力的な運用をする</p> <p>・授業を行う場所は、いつも机といすで同じ場所での活動だけではなく、場所を移動して大きな掲示物の前に集まったり、椅子だけを自分で持ってきて円形に集まったりなど、活動の内容や状況に応じて場所・集まり方・机の配置を工夫する</p> <p>・集中して授業に取り組めるよう、黒板や教室の前面は、掲示物を選びすっきりさせる</p> <p>・「正しい姿勢」「鉛筆の正しい持ち方」など、絵表示を使って説明し、子供自身が繰り返し確認できるよう、分かりやすい場所に掲示しておく</p> <p>・子供たちが安心し落ち着いた気持ちで学べるよう、慣れ親しんだ歌、手遊びを取り入れる。      歌「ドキドキ1年生」「はじめての一步」「月火水木金土日のうた」「カレンダーマーチ」</p> <p>・休み時間に気分転換ができるよう、就学前に使っていた遊具を配置する等の工夫する</p>

保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	・小学校の生活や学習、入学当初の保護者のかかわり方について理解し学校と共に取り組む ・基本的な生活習慣について改めて意識し、確立を図る
地域	・小学校入学当初の生活や学習の様子を理解する ・行事等で子供たちとかかわり親しみをもつ
児童	・地域行事に参加し、地域への親しみをもつ ・地域の方々と親しみをもってかかわる

連携の例

- ・入学式への参列
- ・保護者会
- ・家庭訪問
- ・学校だより、学年だより等の配布

☆地域財産等の活用

- ・学校近隣探検(公園・自然)

(平成21年度)②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)研究編10~14ページ ③「下町っこ みんなの約束」(平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

3歳児  
4歳児  
5歳児  
1年生

台東区の幼児教育がめざす子供の姿 ○健康やかな心と体をもち、きまりを守り行動できる子供 ○やさしさや思いやりの心をもち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供 ○自然や身近なことに関心をもち、自ら考え、豊かに表現する子供	3	つ	の	柱	生活 ○いろいろな約束やきまりを守ろうとする ○いろいろな活動を楽しむ	健康管理・病気の予防等に関心をもち、必要なことは自分からすすんでする ・手洗い、うがいを習慣化する ・自分の体調の変化に気付き、周りの大人に伝える ・洋服の着替え・始末を時間内にしようとする ・正しい姿勢で立つ、すわる	・忘れ物をしない ・整理整頓等、身の回りのことを自分でやろうとする ・自分で意識して身の回りを清潔に保つ ・学習の準備・片付けをする
						☆生活習慣・学習習慣の 共通化・段階化	特別活動
						・生活の流れが分かり、時間を守って行動する ・交通規則、通学路を覚え安全な登下校をする ・災害や不審者進入時の避難の仕方を知り、安全に行動する	・元気にあいさつをする ・はっきりと返事をする ・地域の方と喜んでかかわり、親しみをもつ ・係活動や当番活動をする ☆こころざし教育③
						・すすんで友達とかかわり相手に自分の気持ちを伝えようとする ・場に応じた言葉遣いの違いを知る。(友達と大人に対する時の違い・授業中の発言の仕方) ・自分の知っている遊びのルールをお互いに出し合い、みんなが楽しめるように遊びのルールを調整しながら友達と仲よく遊ぶことができる ・みんなが過ごしやすい学級にするために友達と協力しながら当番活動に取り組む	・気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心がけて明るく接する ・約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にする ・よいこと、悪いことの判断ができるようになる ☆規範意識の芽生えの育成②
人とのかかわり ○いろいろな人とかかわり、よく助け合っている	・国籍、文化の違い人や身近な人とのかかわりの中で自己主張したり人の立場を理解したりして行動する ・相手の気持ちを考えながら、話したり聞いたりして、自分の感情をコントロールしようとする ・相手のよさに気付き、お互いに認め合う ・生活や遊びのマナーを知る						
学び ○学ぶ楽しさを知り学ぶことへの自信をつける	・経験したことなどについて相手に分かるように話す ・自分の体験したことを話聞いてもらうれしさを感じる ・はっきりした声で話す(姿勢・口形・声の大きさ・速さ) ・自分の知識や体験と結び付けて、話を聞く ・学習の準備・片付けをする ・鉛筆を正しく持つ ・文字を丁寧に書く ・正しい姿勢で立つ、すわる ☆生活習慣・学習習慣の 共通化・段階化	・清潔な身支度・手洗いをし、マナーを守って食事をする ・配膳の方法を覚え、友達と楽しく食べる ・給食は給食室で調理師さんが作っていることを知り、感謝の気持ちをもつ ・食品の名前や特徴を知り、食べ物や栄養への関心を高める ☆食育①					
生活 ○四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付く ・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして遊びや遊びに使うものを工夫してつくる ・作ったものの面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむ	・感覚や気持ちを活かしながら楽しく作る ・感じたことや想像したこと、表現したいことを見つけて表す ・自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る 図画工作	・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに体の基本的な動きができるようになる ・運動にすすんで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりする 体育 ☆体力の向上④					
生活 ・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く ・話す事柄を順序立てて話す →P.65 ・書くことを決め、書くとする題材に必要な事柄を集める ・話のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する 国語	・自分の歌声・発音に気を付けて歌う ・互いの歌声や伴奏を聴いて 声を合わせて歌う 音楽	・地域の文化や芸術に触れ、本物を知る経験を通して地域への誇りや愛着をもつ ☆地域財産等の活用					
算数 ・ものもとの数を数えることにより、ものもとの個数を比べる ・個数や順番を正しく数えたり表したりする ・加法・減法が用いられる場合について知る ・時計の見方がわかる	算数	算数					

幼・保・こ・小の連携	連携のねらい	
	園児	・小学生に親しみ、あこがれの気持ちをもつ
	小学生	・年少者にやさしく接し、思いやりの気持ちをもつ ・自己有用感をもつ
	保育士・教員、小学校の教員	・1年生の実態を共通理解し、指導に活かす ・互いの教育について理解を深める

**幼児と児童の交流例**  
 ・運動会へ園児を招待

**保育士・教員と小学校の教員の連携・交流例**  
 ・保育参観と情報交換会(6月)  
 ・交流活動の打ち合わせ会 →◆P.115  
 ・合同研修会

<年間計画の参考になる資料>①「学校における「食育」の推進」(平成20年度)②「台東区の幼稚園・小学校・中学校のつながりのある楽しい食育」③「下町台東の美しい心づくり」(平成19年度) ④「こころざし高く 教師用指導書」(平成20年度)読み聞かせ資料編3～17ページ 365ページ

→P. 〇〇 は、関連する事例が掲載してあるページを示す

◆は、平成23年1月発行「ちいさな芽」を参照

保育・教育の実践において重視する点(幼児期)

1 主体的な活動、協同的な遊び 2 見る、聞く、話す力の育成 3 計画的・柔軟性のある環境・援助

指導・環境(配慮事項)	段差を乗り越えるための具体的な取組(例)
<p>① 生活習慣や行動の仕方については、特に就学前の経験を踏まえ、段階的に指導する</p> <p>② きれいに片付いた心地よさや、次に使うときの使いやすさを知らせ、片付けの必要感を感じて片付けられるようにする</p> <p>・すすんで着替えをしている姿を認め、より手際よくできるように方法を知らせる</p> <p>・自分たちでできるようになった喜びを味わうことで自分の仕事を最後まできちんと行うことの大切さを伝える</p> <p>・多くの人にあいさつ・返事などをすることで気持ちよさを味わえるようにし、場面をとらえた、あいさつや返事が適切にできるようにする</p>	<p>・時計を使って片付けの時間や次の活動が始まる時間を時計の針の形で示し、授業時間、休み時間を自分たちで気が付いて行動できるようにする</p> <p>・机の引き出しやロッカーを週に1度、整理させ、使わないものは持ち帰ったり処分したりすることを促し、使いたいものがすぐ取り出せるようにする</p> <p>・教室に通学区域の地図を掲示する。縦割り地域班での下校が安全にできるように保護者と連携し、指導をする</p> <p>・あいさつや返事が適切にできるよう、様々な場面で指導を重ねていく</p>
<p>・自己を発揮をし、自分の思いを調整できるよう、自分の発言や行動について考える機会を作り、支援する</p> <p>・考えたことや感じたことなどを教師や友達に分かるように伝える機会を作る</p> <p>③ 各個人が学級の中に居場所があるか、自己を発揮できているかなど、他の教師からの情報や保護者との連携を重視しながら、友達関係に留意する</p>	<p>・子供たちが友達と一体感をもてるように慣れ親しんだ歌、手遊びを取り入れる 歌「みんなともだち」「さんぽ」「世界中の子供たちが」「ゆうき100パーセント」など</p>
<p>・様々な学習や生活の中で子供たちが満足感や達成感を味わえるよう、興味・関心を引き出し、子供たちの心の動きを受け止めながら指導を行う。</p> <p>④ ユニバーサルデザインを意識し、指導方法や環境設定を工夫する</p> <p>・授業を行う場所や環境については、学習の内容や活動に応じて設定し、興味・関心をもたせ、活動への意欲が高まるようににする。</p> <p>・学習活動に応じて一度に出す指示を増やしていく</p> <p>・全体にした指示が個人に通っているか、確認をしながら学習を進める</p> <p>・見つけたこと、分かったこと、感じたことなどを子供たちが伝え合う場を大切にす</p> <p>・一人一人の学習の定着、理解の状況を把握し、適切な個別指導を組み合わせて行う</p>	<p>・学習の際の姿勢や鉛筆の持ち方は適宜、確認して指導するとともに子供自身が繰り返し確認できるよう、「正しい姿勢」「鉛筆の正しい持ち方」などを分かりやすい場所に掲示しておく</p> <p>・学習の約束と連携し、規律を守らせるとともに、話を聞く姿勢を徹底させる</p> <p>・集中して授業に取り組み、学習効果を高めるよう、一斉での学習に加えて、2人での活動やグループでの活動など多様な学習形態を取り入れるようにする。</p> <p>・子供たちの気分転換を図り、集中して学べるよう、慣れ親しんだ歌、手遊びを取り入れる。 歌「月火水木金土日のうた」「カレンダーマーチ」</p>

3 歳児  
4 歳児  
5 歳児  
一年生

保護者・地域との連携

連携のねらい	
保護者	・小学校の生活や学習、保護者のかかわり方について理解し学校とともに取り組む ・基本的な生活習慣について改めて意識し確立を図る
地域	・小学校生活や学習の様子を理解する ・行事等で子供たちとかわり親しみをもつ
児童	・地域行事に参加し地域への親しみをもつ ・地域の方々と親しみをもつかわる

- 連携の例**
- ・運動会
  - ・土曜公開授業
  - ・保護者会
  - ・学校だより、学年だより等の配布

- ☆**地域財産等の活用**
- ・地域探検
  - ・上野の文化施設見学(校外学習)
  - ・クリーン作戦

(平成21年度)②「幼児の規範意識を育む」(平成20年度)②「幼稚園・小学校の円滑な接続を目指して」(平成18年度)研究編10～14ページ ③「下町っこ みんなの約束」(平成21年度) ④「見つめ直そう 子供の体力」(平成21年度)

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

# 一年生の指導 (例) 5月

算数 単元名 「いくつといくつ」 指導時数7時間  
本時の学習 (6/7時間目)

## ねらい

- ・1つの数を他の数を用いていろいろな組み合わせを考えて表そうとする。
- ・10までの数について、1つの数を他の2つの数の和や差としてとらえ、言葉や半具体物などを用いて表現することができる。
- ・10までの数の合成、分解ができる。
- ・10までの数の構成を理解する。

## 幼稚園・保育園・こども園で経験してきたこと

- ・日常生活の中で、同じ仲間（種類、形、色、大きさなど）を集合として、とらえ、仲間分けをすることを遊びや道具の片付けなどを通して経験している。
- ・5のまとまり、10のまとまりで数を数えることを、遊びのなかで経験している。
- ・遊びの中で体験した具体的な姿から、ものの名前や仲間などの概念が芽生えるように、環境設定や、働き掛けが行われる。

## 接続をふまえた配慮点

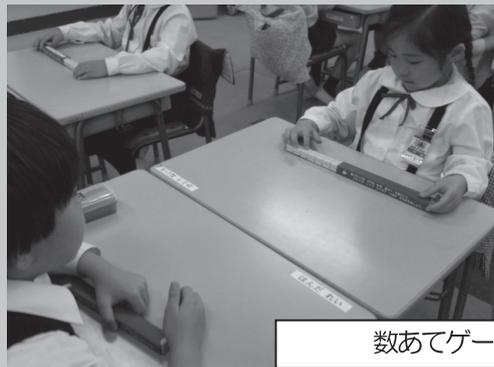
- ・集中力が続かないことを考慮し、教科書の挿絵を見て、話し合う活動とゲーム的な要素を取り入れた活動を行う。静的な活動、動的な活動を入れることにより、入門期の児童が楽しく、しっかり学習ができる。
- ・学習のルールについて、繰り返し確認しながら行うようにする。

# ここがポイントです！

15分×3という時間配分を基本に、児童があきずに45分間の授業に参加できるように工夫しています。



10を作りましょう



数あてゲーム

本時の学習

- (1) 目標  
10の構成を理解する
- (2) 展開

時間	コマ	学習活動	○：指導者の配慮事項 ☆：幼児教育との関連 小学校入門期に重視する3点 ★1 学習習慣・生活習慣を組み込んだ学習 ★2 見る、聞く、話す力の育成 ★3 柔軟性のある環境づくり
		数あてゲームをしましょう	
1/3	1	1 教科書の絵を見て、場面を理解する。  2 8はあといくつで10になるか考え、発表する。 ・8は、あといくつで10になるかな。 ・あわせて10ができる数を、さがしましょう。  3 10は、どんな数に分けられるかまとめる。 ・10は、いくつといくつに分けられますか。□に数字を書きましょう。	○簡単な数のゲームをして、集中力を高める。  ★1 学習に使うものについては、具体的な指示を出し、徹底させる。 ★2 発表する際には、挙手し、指名されたら、「はい、○です。」と答えさせる。 ○数カードを自由に操作させる。 ☆園の生活や遊びのなかで、5のまとまりや10のまとまりで数を数えることを経験している。
2/3	1	4 ゲームを行う。 ・算数ブロックを使って、「数あてゲームをしましょう。」  5 数の変わり方について考える。 ・10はいくつといくつでできているのが分かるように、順序よく並べました。これを見て、気付いたことはありますか。	★2 ゲームのやり方について、児童に分かりやすく指示する。 ★3 ペア学習をさせることにより、場面転換を図る。  ○数字を縦に見た時に、左側の数字は増えていて、右側の数字は減っていることなどを見つける。 (評価) ・「10」を他の2つの数の和や差としてみて、「10」の合成、分解をすることができる。 ・「10」の構成を理解している。
3/3	1	6 10に対する補数を見つける。 ・「10にするじゃんけんをしましょう。」	○「10」という数を豊かな感覚でとらえられるようにする。



3歳児

4歳児

5歳児

一年生

# 一年生の指導（例） 6月

国語 単元名 「こえのゆうびん屋さん」 指導時数3時間

本時の学習（2／3時間目）

## ねらい

- ・話をしっかり聞いて、他の人に正しく伝える。
- ・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く。
- ・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音で話す。

## 幼稚園・保育園・こども園で経験してきたこと

- ・友達と共通の目的をもち、感じたことや考えを言葉で伝え、受け止め合いながら遊ぶ楽しさを経験している。
- ・経験したことや自分の考えや思いをクラスの友達の前で分かるように話したり、友達の話の話を聞いたりする場を設けている。また、相手の話を聞く必要性や話を聞く楽しさを感じるような工夫をしている。
- ・話を聞き、他の人に伝えることを経験している。たとえば、明日の持ち物を保護者に伝える、簡単な伝言ゲームで正しく伝えようとするなどがある。

## 接続をふまえた配慮点

- ・入門期の児童は自分を分かってほしいという思いが強い反面、人の話を正しく聞き取るのは苦手である。正確に話を聞き、友達に正しく伝えないと塗り絵が完成しないという場の設定をすることで、話を聞く必要性が生まれ、聞く楽しさを感じ取ることができる。
- ・塗り絵をする活動を取り入れたり、「ゆうびん屋さん」の役割を作ったりすることで、児童が楽しく活動できるようにしている。また、友達と共通の目的をもたせるためにグループで協力して絵を完成させる活動を取り入れる。

# ここがポイントです！

ゲームのような楽しい活動しながら、聞く力、伝える力をつけます。活動の見通しがもてるような表示・指示を行います。



本時の学習

(1) 目標

「声の郵便屋さん」をやって、正しく聞いたり伝えたりすることができる。

(2) 展開

時間	コマ	学習活動	<p>○：指導者の配慮事項                      ☆：幼児教育との関連                      小学校入門期に重視する3点                      ★1 学習習慣・生活習慣を組み込んだ学習                      ★2 見る、聞く、話す力の育成                      ★3 柔軟性のある環境づくり</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「こえの ゆうびん屋さん」になろう</div>			
1/3	1	<p>1 本時のめあてを確かめる。                      ・郵便屋さんが正しく聞いて伝える                      ・色を塗る人も正しく聞く</p> <p>2 「こえのゆうびん屋さん」の注意点を確認する。</p>	<p>○前時の学習を振り返り、交替で郵便屋さんになることを伝える。                      ○郵便屋さんが正しく聞いて伝えるだけでなく、色を塗る人も正しく聞かなければならないことを確認する。</p> <p>○順番を間違えないよう、絵や文で分かりやすく示しておくなど、活動の見通しをもてるようにしておく。                      ★1 机の上には、使うパスだけを出しておくなど整理整頓をし、作業がしやすくしておく。</p>
2/3	1	<p>3 「こえのゆうびん屋さん」をやる。                      ・グループごとに役割を確認する。                      ・3回繰り返す。</p> <div data-bbox="320 1093 762 1733" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;">  </div>	<p>★3 生活班を活用し、4～5人のグループで行い、机の配置を塗り絵がしやすいように工夫する。                      ○2回目に入る前に、各グループが正しく塗れているか確かめ、各グループが役割を交代しているか注意する。                      ○教室前の掲示してある「声の階段」を活用して、グループ活動時や発表時の声の大きさを意識させる。                      児童が塗り絵を完成させることに夢中になり、大声で話さないよう、ねらいを確認する。                      ○「はじめに」「次に」「それから」「最後に」などの順序を表す言葉を使うように意識させる。                      ★2 教師や郵便屋さん役の児童の話すことを最後までしっかり聞くようにする。                      ☆園の生活の中で、話を最後まで聞く経験をしている。                      ☆園で経験している伝言ゲームのルールや注意を振り返るとよい。                      (評価)                      ・教師の話を正確に聞き、友達に伝えている。                      ・友達の話も正確に聞き、正しく色を塗れている。</p>
3/3	1	<p>4 学習して感じたことを発表する。</p> <p>5 本時の学習のめあてにそった振り返りカードに記入する。</p> <p>6 次の時間も同様な活動をすることを伝える。</p>	<p>☆経験したことや自分の考えや思いをクラスの友達の前で分かるように話したり、友達の話も聞いたりすることは経験している。</p> <p>○「正しく伝えることができたか。」「正しく聞くことができたか。」について自己評価させ、楽しただけではなく、ねらいが達成できたかを意識させる。</p>

3歳児  
4歳児  
5歳児  
一年生

## 保護者との連携・理解啓発（例）

「1年生の学校生活について保護者に理解してもらいましょう。」（小学校最初の保護者会の工夫）  
4月

### ねらい

- 小学校における年間の生活、学習についての1年生の活動を保護者に伝えることで、幼稚園・保育園・こども園との異なる点や、学校や担任へのかかわり方について説明し、不安を軽減するとともに、生活習慣、学習習慣の確立についての家庭の協力についての意識を高める。

### 計画のポイント

- 小学校における児童の姿や学校の経営方針、学年、学級の経営方針、指導内容などとともに、幼児期の経験が小学校の学習内容とどのように関連しているかについても保護者に伝えるようにする。
- 学校の教育活動について、家庭における協力の重要性について具体的に伝えることで、学校と家庭と一緒に児童を育てていく意識が高まるようにする。

### 保護者会の流れと留意事項

#### 保護者会の流れ

- あいさつ
- 入学後の児童の様子について
  - 生活の様子
  - 学習の様子
  - 遊びの様子
  - 他学年とのかかわりなど
- 年間の指導について
  - 指導方針
  - 1年間の生活の見通し
    - 1年間の主な活動計画
    - 生活、学習、行事などを通して指導する内容と幼児教育と関連
  - 学校と家庭の連携について
    - 保護者が参観できる機会
    - 家庭教育の大切さ
- 保護者より一言
- 連絡事項

163 ページの  
「小学校入門  
期の生活習慣  
・学習習慣」を  
参考にする

#### 留意事項

- ・ 入学当初の児童の生活や学習の様子、作品、「はじめてかいたなまえ」などを掲示しながら、具体的なエピソードを通して伝えるようにする。
- ・ 生活や学習、遊びの様子など、小学校生活への適応している状況について具体的な場面に沿って分かりやすく説明をする。
- ・ もう少しできるようにと、学校で指導を重ねているところについても「こんなふうに指導しています。」と伝えて、理解してもらいようにする。
- ・ 「小学校における1年間の学習、生活の概要」の資料を配布し、幼稚園・保育園・こども園との違いや、関連する部分などについて具体的に分かりやすく伝える。幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員が参加して一緒に話をするのもよい。
- ・ 入学後、家庭においても児童に基本的な生活習慣の確立の取組をより一層充実させていく必要があることを伝える。
- ・ 入学後の生活への不安を解消し、家庭で学校生活の話題を児童と保護者が共有できるように、保護者が生活や学習の様子を参観する機会について年間を通して設定していることを伝え、継続しての参加を呼びかける。

### 資料作成のポイント

- 小学校の生活や学習内容が、幼稚園・保育園・こども園における保育・教育内容がどのように関連しているのかが分かるように説明する。
- 1年間の主な学校の行事や学習予定を示すなど、家庭と連携して教育活動が進められるように説明をするとともに、保護者が学校の教育活動を参観する時期や内容が具体的に分かるようにする。

### 保護者会における資料を使った説明のポイント

- 小学校生活を魅力的に話し、保護者や児童が夢や期待感をもてるようにしましょう。
- 学校の経営方針に沿って、学年、学級の経営方針を分かりやすく説明していきましょう。児童が自分の力を発揮して、友達と力を合わせて楽しく学校生活をすごしていけるよう、学校と家庭が協力していくことを確認しましょう。
- 小学校で初めて学ぶ、教科の学習内容や、生活科の学習、給食、学校行事などさまざまな学校での活動については、分かりやすく説明をしていくようにしましょう。また、入学式の日には説明ができなかった、生活習慣や持ち物、家庭での学習などについても具体的に話をする時間をとっていくことが大切になります。
- 学習などで使用する用具のうち、学校で購入希望をとるものについては、資料と併せて実物を用意しておくようにしましょう。
- 毎日送り迎えのあった幼児期に比べて、保護者と担任とのかかわりが少なくなります。不安なことは、日ごろから気軽に相談してもらえるように話しましょう。担任以外にも学校にはスクールカウンセラーなどの相談窓口があることも状況に応じて伝えていくとよいでしょう。
- 学校行事の説明と併せて、保護者の会やPTAの活動についての説明の時間をとっていくようにしましょう。詳しい内容については、PTAの役員会などと事前に調整をして、経験のある方に具体的な説明をお願いするとよいでしょう。また、年度初めの委員の選出を行う学校もあります。円滑な議事が進むように配慮をしていくようにしましょう。

### 小学校における1年間の指導の概要の例

主な行事	
1学期	保護者が参加・参観できる機会など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生を迎える会</li> <li>・ 保護者会・・・・・・・・・・1年間の始めの保護者会です。</li> <li>・ 運動会・・・・・・・・・・運動会に1年生は2種目参加します。</li> <li>・ プール開き・・・・・・・・・・プールの用意については6月にお知らせします。</li> <li>・ 学校公開日・・・・・・・・・・学校公開があります。</li> <li>・ 保護者会・・・・・・・・・・1学期の最後の保護者会です。</li> </ul>	
2学期	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プール納め</li> <li>・ 保護者会・・・・・・・・・・2学期始めの保護者会です。夏休みの様子などをお聞かせください。</li> <li>・ 全校遠足</li> <li>・ 学校公開日</li> <li>・ 音楽会・・・・・・・・・・音楽会は土曜日と日曜日に予定されています。保護者の方の参観は日曜日です。</li> <li>・ 個人面談・・・・・・・・・・11月に個人面談を予定しています。日程の調整は早めにご連絡いたします。</li> </ul>	

- PTAや「保護者の会」などの主催する保護者行事や、地域の行事なども予定の中で説明ができるようにしていくとよいでしょう。地域の行事や保護者主催行事などにも家庭が積極的にかかわっていくことで、保護者を含めた子供と地域との関係づくりができ、子育て支援の面からも有意義であることも付け加えていくとよいでしょう。

## 保育士・教員、小学校教員の連携・交流（例）

「入学当初の1年生の学校生活への適応状況を把握して、幼稚園・保育園・こども園の指導内容・方法の改善・充実に活かしましょう。」（授業参観と意見交換会）4月

### 連携のねらい

- 入学当初の1年生の学校生活への適応状況を幼稚園・保育園・こども園の保育者が把握し、発達と学びの連続性を踏まえた幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために求められる指導内容・方法について、幼稚園・保育園・こども園の保育者と小学校の教員が相互理解を図り、それぞれの日常の指導の改善・充実に活かす。

### 計画の流れ

- 入学当初の1年生の適応状況を把握するために、幼稚園・保育園・こども園の保育者が授業参観を行う機会を設定し、児童の適応状況の把握に基づいて小学校の教員と意見交換を行う。
- 幼稚園・保育園・こども園の幼児と児童が交流する活動の「年間計画」について共通理解し、1年間の交流についての見通しをもつようにする。

### 連携交流会の流れと留意事項

#### 連携交流会の流れ

- 1 幼稚園・保育園・こども園の保育者が入学当初の1年生の授業参観をする。
- 2 授業参観に基づき、入学当初の1年生の児童の適応状況について意見交換をする。
- 3 幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために求められる指導内容・方法について意見交換をする。
- 4 幼児と児童が交流する活動の年間計画について確認し、情報交換をする。  
\* 交流を計画している学年の担任を対象とする。

#### 留意事項

- ・ 入学当初の1年生の適応状況について参観しながら、幼稚園・保育園・こども園での指導を振り返り、幼児期に身に付けさせたいことや指導を継続してほしいことなどについてメモする。
- ・ 1年生の学級担任から入学当初の児童の適応状況について課題となっていることを伝える。
- ・ 幼稚園・保育園・こども園の保育者から授業参観で気付いた児童の適応状況の課題を伝える。
- ・ 小学校教育との円滑な接続のために幼稚園・保育園・こども園で幼児に身に付けておいてほしい基本的な生活習慣やそのための指導内容・方法の改善・充実の視点について意見交換をする。
- ・ 幼児と児童が交流する活動の「年間計画」に基づいて、打合せの時期や取組内容の実施計画案などについて情報交換をし、見通しがもてるようにする。

## 意見交換の内容の例

- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために求められる指導内容・方法について意見交換をします。

## 幼稚園・保育園・こども園からの意見の例

- ・ 入学当初は、45分間集中して、みんなと一緒に活動することは大変そうですね。
- ・ 遊びの中でも、友達と一緒に目的をもって「どうする?」「こうしよう。」などと相談してやりとげたり、学級で劇や合奏などをして、「みんなで一緒にやって楽しかった。」という満足感を味わったりする経験をたくさんすることが大切です。
- ・ 小学校は、給食を短い時間で食べるのですね。入学に向けて、時間を意識して食べられるようにしておく必要がありますね。



## 小学校からの意見の例

- ・ 入学当初は、体験的な活動を多く取り入れて、楽しく学習に取り組めるように工夫しています。
- ・ 幼稚園・保育園・こども園で「みんなで一緒にやって楽しかった。」という経験をしてきている児童は、授業の中で、みんなで学ぶことの楽しさを少しずつ感じていきますね。
- ・ 小学校では、給食を20分から30分程度で食べます。給食の時間内に食べ終わらない児童や好き嫌いがある児童もいます。



- 意見交換に基づいて、幼児教育と小学校教育との円滑な接続のための幼稚園・保育園・こども園における指導内容・方法の改善・充実策を明確にしていきます。

「幼児教育共通カリキュラム」の次の点について幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員、小学校の教員とで、共通理解を深めていきましょう。

参考)

- 幼児期に重視していくこと
  - 「主体的な活動、協同的な遊び」
  - 「見る、聞く、話す力の育成」
  - 「計画性・柔軟性のある環境・援助」
- 小学校入門期に重視していくこと
  - 「基本的な学習習慣・生活習慣」
  - 「見る、聞く、話す力の育成」
  - 「柔軟性のある環境づくり」

それぞれの幼稚園・保育園・こども園での指導内容・方法の改善・充実策を考えていきましょう。



また、「生活習慣・学習習慣の段階化、共通化」についてこの機会に話題にして確認をしていきましょう。

# 保育士・教員、小学校教員の連携・交流（例）

「生活や学習の様子を理解しましょう」－入学後の生活や学習の様子の相互理解－

（連携の日の取組の例）5月頃

## 連携のねらい

入学後約1か月を経過した児童の実態や、学校生活への適応状況を幼稚園・保育園・こども園の保育者、小学校の教師が把握し、発達と学びの連続性を踏まえた幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために求められる指導内容・方法について相互理解を図り、それぞれの日常の指導の改善・充実に活かす。

## 計画の流れ

幼稚園・保育園・こども園の保育者、小学校の教師が小学校1年生の授業を参観する機会を設定し、児童の適応状況の把握に基づき、「幼児教育共通カリキュラムで重視する内容」を中心に幼児教育の取組と小学校教育の取組、幼児教育から小学校教育への円滑な接続について意見交換を行う。

## 連携の日



小学校の授業の参観の様子

## 事前の準備

授業実践に際し、全体会や分科会で話題にしたい「幼児教育共通カリキュラムで重視する内容」（例：規範意識の芽生えの育成、こころざし教育、食育、体力の向上、生活習慣・学習習慣の共通化・段階化、地域財産等の活用）を決定して授業を構成する。ファミリー校園に事前に内容の連絡を行う。

## 連携の日の流れ例

- 1 授業公開・参観**
  - ・幼稚園・保育園・こども園の保育者、小学校の教師が1年生の授業を参観。
- 2 全体会**
  - ・会場校校長あいさつ。
  - ・「幼児教育共通カリキュラム ちいさな芽」についての講話。
- 3 分科会**
  - ・1年生の担任からの報告。
  - ・授業参観に基づき1年生の児童の適応状況について意見交換。
  - ・「幼児教育共通カリキュラムで重視する内容」について幼児教育と小学校教育における円滑な接続の取組について今回共通な話題として1～2点に絞り意見交換。
- 4 まとめ**
  - ・ファミリー校校長講評。

## 留意事項

- 1 授業公開・参観：** 1年生の適応状況について参観しながら、幼稚園・保育園・こども園での指導を振り返り、幼児期に身に付けさせたいことや指導を継続してほしいことなどについて各自で記録する。
- 2 全体会：** 「幼児教育共通カリキュラム ちいさな芽」の主旨や今回の「連携の日」で取り上げた「幼児教育共通カリキュラムで重視する内容」についてファミリー園長や教育支援館専門スタッフが講話を行う。
- 3 分科会：** 1年生の学級担任から指導の配慮点、児童の適応状況について効果があった点や課題となっていることを伝える。  
幼稚園・保育園・こども園の保育者から授業参観で気付いた児童の適応状況の課題を伝える。  
幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために幼稚園・保育園・こども園で幼児に育てたい力や身に付けておいてほしい基本的な生活習慣やそのための指導内容・方法の改善・充実の視点について今回取り上げた、「幼児教育共通カリキュラムで重視する内容」に則して、意見交換をする。  
例：分科会1「規範意識の芽生えの育成」  
分科会2「体力の向上」
- 4 まとめ：** 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るための取組についてまとめる。

## 保育士・教員、小学校教員の連携・交流（例）

「幼児と児童の交流活動の当該学年担任で打ち合せ会を行い、交流活動の改善・充実に活かしましょう。」  
(交流活動の打ち合せ会) 7月

### 連携のねらい

- 5歳児と1年生、5年生の学校や園への適応状況について幼稚園・保育園・こども園の保育者と小学校の教員が互いに現状を理解して、今後実施する交流活動の指導内容・方法について意見交換し、具体化していく。

### 計画の流れ

- 7月下旬の比較的、学校や園に余裕のある時期を選び、交流活動の当該学年の担任などが集まり、現在の当該学年の幼児、児童の様子について意見を交換する。
- 年度当初に計画していた交流活動について、現在の幼児・児童の様子から具体的な詳細案を出し、相互理解を図る。
- 具体的な計画を決定して、交流活動実施までの保育や教育活動の見通しをもつようにする。

### 連携交流会の流れと留意事項

#### 連携交流打ち合せ会の流れ

- 1 5歳児の担任から5歳児の現状を伝える。
- 2 1年生、5年生の担任から児童の現状を伝える。
- 3 9月の交流計画について確認する。  
「5年生が園を訪問して、小学校の説明をする。幼児と一緒に簡単な遊びを行う。」
- 4 交流当日、話のなかでふれる「就学時健康診断」について確認する。
- 5 原案修正後、相互共有する。
- 6 10月以降の交流計画の当該学年の打ち合せについて確認する。

#### 留意事項

- ・ 7月までの5歳児と1年生、5年生の状況について全体の傾向や、個別の幼児・児童の様子などについて伝える。具体的な事例をとらえて話をしてもよい。
- ・ 教育的配慮の必要な幼児・児童については個別に情報を交換する。
- ・ 当初の計画通りの実施が可能かという点について確認する。引率者についても確認ができるとうい。
- ・ 5年生を迎える園側の都合や配慮事項については詳しく要望を聞くようにする。
- ・ 「就学時健康診断」については受診する学校が様々な場合があるので、園と保護者との連携をふくめて確認する。
- ・ 互恵性のある交流活動にする視点で話し合いを進めていく。
- ・ 時間があれば、簡単に小学校教育との円滑な接続のために園で幼児に身に付けておいてほしい基本的な生活習慣やそのための指導内容・方法の改善・充実の視点について意見交換をするとよい。
- ・ 当日の会場が保育園の場合には小学校の教員の保育参観を取り入れることもよい。

## 意見交換の内容の例

- 5歳児と1年生、5年生の状況について全体の傾向や、個別の幼児・児童の様子について意見交換をします。

## 幼稚園・保育園・こども園からの意見の例

- ・ 5歳になってから、小集団で遊ぶ活動を多く取り入れるようにしています。友達と一緒に「〇〇ごっこ」などの遊びを楽しんでいます。今年の5歳児は外で遊ぶ子どもが少ないようです。担任が声をかけて、鬼遊びなどをするようにしています。
- ・ 絵本を読む子どもがとても多いです。毎日帰りには、読み聞かせを行っています。交流活動でも5年生に絵本を読んでもらう時間が少しでもあるととても喜ぶでしょう。
- ・ 通学の関係で数人は□□小学校へ行くことを考えているようです。



## 小学校からの意見の例



- ・ 1年生は活発な児童が多く、積極的に学習や運動に取り組んでいます。新しい友達関係もできてきました。
- ・ 5年生は男女とても仲がよく、休み時間には男女一緒に校庭で遊んでいます。縦割り班活動でも低学年のお世話をよくやっているようです。
- ・ 下に妹や弟のいる児童も多く、幼児のお世話をすることを楽しみにしているようです。

- 意見交換に基づいて、幼児と児童が交流する活動の充実に向けて具体的に計画を改善・充実に向けて見直していきましょう。

## めあて

幼児と児童が交流する活動を通して、次のことを目指しましょう。

## 【幼児】

幼児には、園の生活と小学校の生活との違いを意識させるとともに、その違いを克服するために小学校の「ひと・もの・こと」に慣れ親しませるようにする。

## 【児童】

児童には、自分の成長を感じ取らせるとともに、新たな学年に進級することへの自覚と責任をもたせるようにする。

## 手だて

- ・ 幼児が児童にお世話になるといった活動だけではなく、幼児と児童が協力し合いながら目的を達成するというような活動も設定できるとよい。
- ・ 活動するグループを毎回同じにすることで、安心して新しい活動に取り組めるようにするとともに、児童に対する親しみや憧れを抱き、小学校の生活や学習に対する期待感を高めていけるようにする。
- ・ 小学校には、「休み時間や掃除の時間がある。」などのように、園との生活の違いに気付くようにする。

# 保育士・教員、小学校教員の連携・交流（例）

「入学に向けて幼稚園・保育園・こども園から小学校への指導の接続を図りましょう」

（保育参観と意見交換会）2月

3  
歳  
児

4  
歳  
児

5  
歳  
児

一  
年  
生

## 連携のねらい

来年度入学する幼児の実態や指導の接続を図る上で必要となる留意事項などについて、幼稚園・保育園・こども園での幼児の生活の様子を小学校の教員とが相互理解を図ることで、小学校においては入学後の児童の指導に活かし、幼稚園・保育園・こども園においては今後の幼児の指導への見通しをもてるようにする。

## 計画の流れ

- 入学を前にした幼稚園・保育園・こども園での幼児の実態を把握するために、小学校の教員が保育参観を行う機会を設定し、幼児の実態に基づいて指導の接続のための情報交流ができるようにする。
- 指導の接続を図るために、小学校ではどのような指導を行っていけばよいのか、幼稚園・保育園・こども園での具体的な指導事例を基に情報交換できるようにする。

## 連携交流会の流れと留意事項

### 連携交流会の流れ

- 1 小学校の教員が、幼稚園・保育園・こども園の保育参観を行う。



- 2 幼稚園・保育園・こども園から小学校への指導の接続を図るために、幼稚園・保育園・こども園の指導の実態を踏まえて、小学校の指導に活かせる内容や方法について意見交換をする。
- 3 幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員と小学校の教員が、幼児の実態や指導の際の配慮事項などについて情報交換をする。

### 留意事項

- ・ 小学校の教員が幼児の実態や幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員の指導の様子を把握できるように保育参観日を設定する。
- ・ カリキュラムで重視する、「主体的な活動、協同的な遊び」「見る、聞く、話す力の育成」「計画性・柔軟性のある環境・援助」の3点から気付いたことをメモして、情報交換に生かせるようにする。
- ・ 「人の話を聞く場面」「遊びの後で集合する場面」など、具体的な活動場面で幼稚園・保育園・こども園ではどのような指導を行ってきているか、また、小学校の指導でも活かせる指導内容・方法について意見交換する。
- ・ 幼児に身に付いている基本的な生活習慣や学習面の資質・能力についてカリキュラムの「幼児期に育てたい望ましい姿」などを参考に情報交換する。
- ・ 「就学支援シート」などを活用して特別な教育的支援が必要な幼児に対する具体的な指導方法などについて共通理解を図る。

## 意見交換の内容の例

- 幼稚園・保育園・こども園から小学校への指導の接続を図るために、幼稚園・保育園・こども園の指導の実態を踏まえて、小学校の指導に活かせる内容や方法について意見交換をする。

### 小学校からの意見の例

- ・ 入学当初、児童を集めたり、並べたりするときにはどのようにしたいのでしょうか。幼稚園・保育園・こども園ではどのように指導していたのですか。
- ・ 先生の話に集中して聞くことができない児童がいます。幼稚園・保育園・こども園では話を聞く際になにか工夫をしていたことはありましたか。



### 幼稚園・保育園・こども園からの意見の例

- ・ 幼稚園・保育園・こども園では、最初は集まる場所に目印のコーンを置いたり園庭に線を引いておいたりしています。視覚的に分かるものがあると、集まる場所が明確になり、子どもたちは集まることができるようになっていきます。
- ・ 話を聞くだけでは、内容を十分に理解できない子どももいます。そのときには、写真や絵を用いて話をします。また、場面や状況を踏まえて話をしたいときには、ペープサートやパネルシアターなどを利用して具体的な内容を伝えることもあります。話の内容が理解できると、興味・関心をもって話を聞くことができるようになります。



- 幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員と小学校の教員が、幼児の実態や指導の際の配慮事項などについて情報交換する。

### 「就学支援シート」を活用した引継ぎの流れ

- ① 教育委員会が、就学前の機会において説明とともに希望する保護者へ、「就学支援シート」を配布する。
- ② 保護者の意思で、「就学支援シート」の作成を開始する。
- ③ 幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員が、「就学支援シート」に記入する。
- ④ 保護者が、「就学支援シート」に記入し、就学する学校に提出する。
- ⑤ 就学先の学校は、保護者との個人面談及び幼稚園・保育園・こども園との引き継ぎを実施し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する。

「就学支援シート」は、円滑な就学を保障するための道具です。

「就学支援シート」は就学が決定した後に、幼稚園・保育園・こども園、療育機関等における幼児の様子や指導・保育又は養育の様子を小学校や特別支援学校の小学部に、あるいは小学校での様子を中学校や特別支援学校中学部に引継ぎ、障害のある幼児の就学後の学校生活をより適切なものにしていくため作成するものです。

「就学支援シート」に基づき、次のような内容について情報交換ができます。

- ・ 幼児の成長や発達の様子
- ・ 幼稚園・保育園・こども園で大切にしてきたこと。(指導内容・方法の工夫や配慮点)
- ・ 就学後も引き続き教育支援が必要と思われる内容や配慮事項 など

3歳児

4歳児

5歳児

1年生

# 保育士・教員、小学校教員の連携・交流（例）

「子どもたちの様子を理解しましょう」 - 入学に向けて幼児の生活への取組を相互理解する -  
(幼稚園・保育園・こども園への訪問例) 3月上旬頃

3  
歳  
児

4  
歳  
児

5  
歳  
児

一  
年  
生

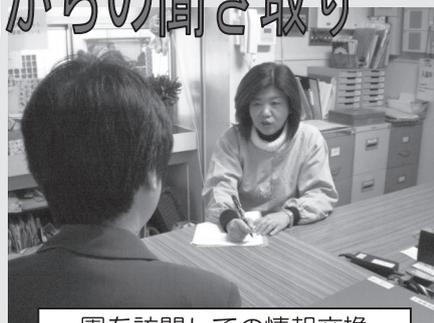
## 連携のねらい

来年度入学する幼児の実態や指導の接続を図る上で必要となる留意事項などについて、幼稚園・保育園・こども園での幼児の生活の様子を保育者と小学校教師とが相互理解を図ることで、小学校においては入学後の児童の指導に活かし、幼稚園・保育園・こども園においては今後の幼児の指導への見通しをもてるようにする。

## 計画の流れ

入学を前にした幼稚園・保育園・こども園での幼児の実態を把握するために、小学校の教師が幼稚園・保育園・こども園を訪問し、園長や保育者から直接、幼児の実態について話を聞き、小学校への円滑な接続のために情報交流を図る。園での日常生活の様子に加えて、場合によっては家庭の状況など必要な情報を引き継ぎ、指導の接続性を図る。また、小学校ではどのような指導を行っていけばよいのか、具体的な指導を基に円滑な接続をめざす。

## 園からの聞き取り



園を訪問しての情報交換

事前準備：事前に連絡をとって訪問する。訪問する教師は教務主任や1年生の担任、養護教諭がよい。訪問する時期は園が修了式・修了お祝い会・卒園式準備などで忙しくなる前など、連絡をとって園の迷惑にならない時期を選ぶとよい。訪問する園が多い場合は、聞き取り内容を確認の上、分担して訪問することもよい。

## 訪問の流れ例

- 1 小学校の教師が、幼稚園・保育園・こども園を訪問する。
- 2 入学が決まっている幼児について、幼稚園・保育園・こども園の幼児の実態や指導の際の配慮事項、園と家庭とのこれまでのかかわり方などについて話を聞く。
- 3 幼稚園・保育園・こども園から小学校への円滑な接続を図るために、小学校の指導に活かせる内容や方法について幼稚園・保育園・こども園の保育者と情報交換をする。
- 4 今後も連携を図っていくことを双方の共通の願いとする。

## 留意事項

- ・ 情報収集には、以下の点などに留意する。
  - ① 入学予定の幼児の名簿や新1年生保護者会で学校が作ったカードなどをもとに、一人ずつ、様子を聞く。
  - ② 次の点などを具体的に聞く。  
新しい環境で一人になると不安になりがちな子どもには一緒にいると安心できる友達、集団的な活動や行事などで中心になって活動していた子ども、友人関係が円滑でなかった子ども同士とその内容、保護者同士の関係性、日本に来て間もない子どもや保護者あるいは通訳などの際に助けてくれる関係の保護者、食事などのアレルギー
- ・ 訪問後、情報の内容、生年月日、出身園等をシールで色分けするなど工夫して、学級編制や入学後の指導に活かしていく。
- ・ 入学後の子どもたちの様子を出身園の保育者に参観してもらい、今後の連携・交流に広げていくとよい。